

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項

1. 京都大学大学文書館に、京都大学大学文書館研究紀要（以下、「研究紀要」という。）の構成および内容に関する基本的計画の立案その他編集の総括を行うため、京都大学大学文書館研究紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。
2. 編集委員会に委員長を置き、大学文書館長をもってあてる。委員は大学文書館教員とする。
3. 研究紀要には、京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等を掲載する。
4. 論文は、400字詰原稿用紙換算で60枚以内、研究ノートは40枚以内、資料紹介は80枚以内、書評は20枚以内とする。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りではない。
5. 研究紀要に執筆することができるのは、京都大学大学文書館の教職員のほか、学内外を問わず編集委員会で選任して依頼した者、執筆を希望して編集委員会で認められた者とする。
6. 原稿は原則として未発表のものに限る。

編集後記

『京都大学大学文書館研究紀要』第9号をお届けします。

巻頭のリッチモンド講演は、ご自身の所属される英国グラスゴー大学アーカイヴズの活動内容と、それにかかわる英国内の大学アーカイヴズの動向について触れられたもので、大学文書館や日本の大学アーカイヴズのこれからの活動を考える上でも、大変示唆に富むものとなっています。

福家論文は、1920年代前半の社会運動のなかに、京都帝国大学社会科学研究会（京大社研）の存在を改めて位置づけなおすことを目的として、新発見を含めた膨大な資料から事実経過を確認するとともに、そこから導き出された諸活動の有する意義を検討しています。なお、本論文の（下）は本誌次号に掲載の予定です。

その他、1930年代前半の京大法学部学生の日記を翻刻した西山資料紹介、昨年度一般公開した『京大天皇事件関係資料』の解説・目録、さらに講義「京都大学の歴史」の実践と「自校（史）教育」について述べた西山記録と、大学史および大学アーカイヴズにかんする多彩な論考を掲載することができました。

大学文書館は今年度、設置から10年の節目を迎えました。また、大学文書館では現在、本年4月の「公文書等の管理に関する法律」施行に備え、諸規程の整備や今後の業務計画等の準備をおこなっています。そのような状況のなかで、大学文書館の調査・研究業務は、アーカイヴズ活動全般を支える重要な側面であると考えております。本研究紀要ともども、11年目の新たな一歩を踏み出す大学文書館に、今後ともご指導いただきますようお願い申し上げます。

(大学文書館助教 清水 善仁)

京都大学大学文書館研究紀要 第9号

2011(平成23)年2月28日発行

編集 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

発行 京都大学大学文書館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

電話 075(753)2651

印刷 ヨシダ印刷株式会社

〒604-8277 京都市中京区三坊西洞院町572

NOA 高松殿ビル6F

電話 075(252)5421
